

『図解！はじめての ArcGIS』をご購入有難うございました。

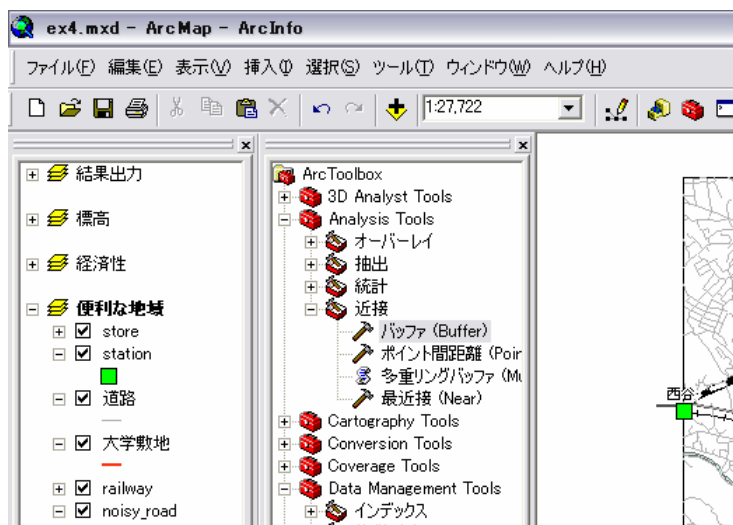
本テキストは、ArcGIS8.3 に基づいた解説を主対象に記述しております。

ArcGIS9.0 よりインターフェースの変更があったため、「演習4」においてバッファ作成など、テキストの指示通りでは進むことが出来ない場合があります。

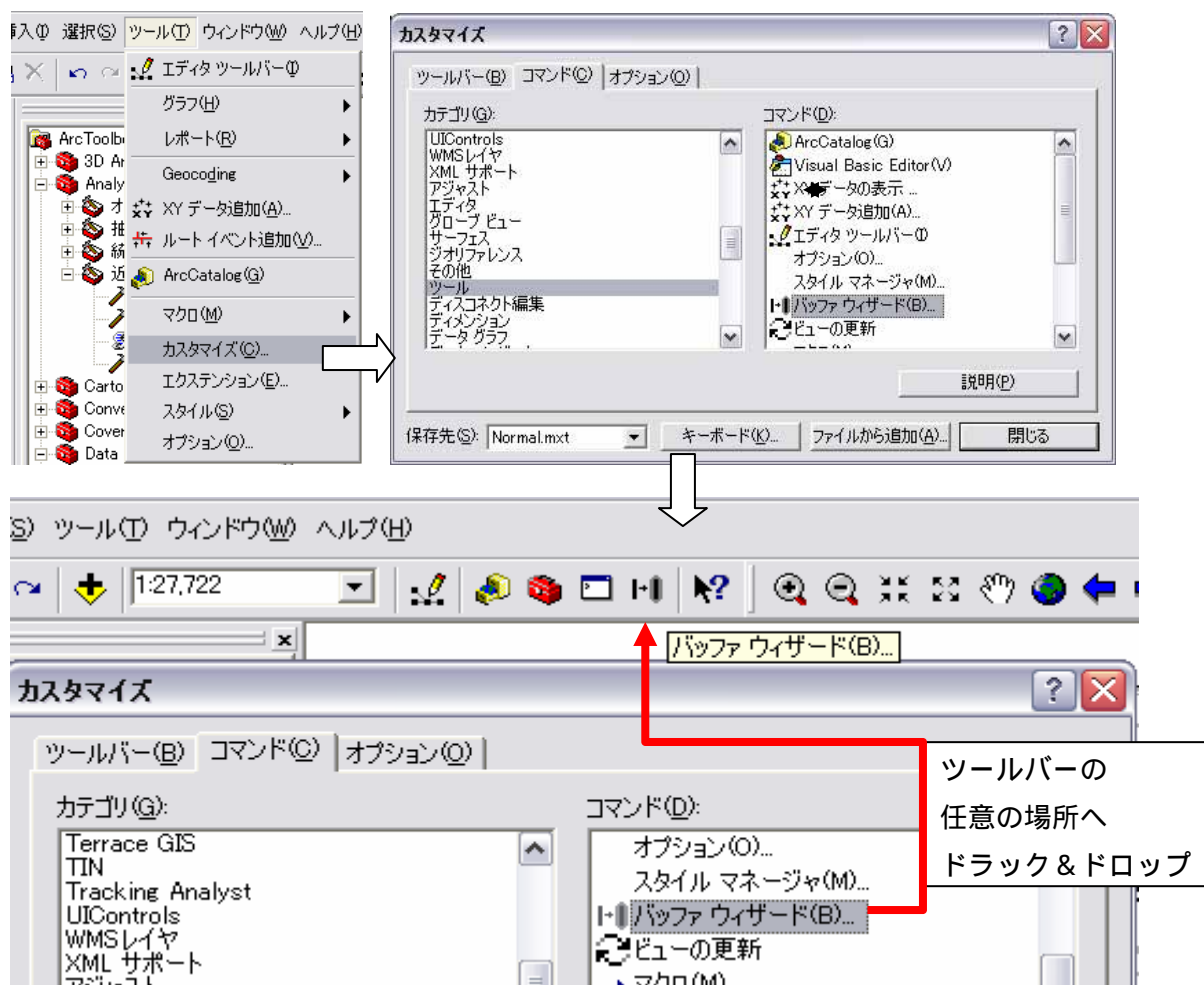
ここでは、ArcGIS9.x においても、テキスト通りに進行出来る解説を行います。

バッファ機能の比較		
	ArcToolbox	カスタマイズ・コマンド
インターフェース	ArcGIS9.x のインターフェース	ArcGIS8.x ジオプロセッシングウィザードのインターフェース
選択フィーチャの考慮	なし。 フィーチャを選択していても、対象レイヤ全てのフィーチャからバッファを作成	あり。 選択したフィーチャのみから作成可能
バッファ距離の出力	なし。 出力レイヤに、いくつかの距離で作成したかの情報は含まれない。必要な場合は、新規フィールドを作成し、フィールド演算等で作成する必要がある。	あり。 出力レイヤに"BufferDist"フィールドが作成され、ウィザード中で指定した距離が数値で格納されている。
座標系	データフレームプロパティに依存	データフレームプロパティに依存

ArcToolbox でのバッファ機能の呼び出し



カスタマイズ・コマンドでのバッファ機能の呼び出し



『図解！ArcGIS』演習4ではArcGIS8.xをベースに記述していますので、 のツールを使用するとテキスト表示の通りに進めることができます。

ArcGIS9.xを使用する場合は、演習2のフィールドの追加や計算を参考に、ArcToolboxを利用して、テキストを進めることができます。

実務の上では、次のステップでどのような解析で使うための出力が欲しいのかを熟考したうえで、手法を選択（解析モデルの構築）することが、効果的なGISの使用に結び付きませす。他のアプローチも是非試行錯誤してみてください。

2005.12.19

著者 F